

ご家族みんなの元気を応援します！

元気ニュース

Genki News Vol.19

「ECM・E ヒアルロン酸」とは…

ヒアルロン酸は体内で生産される物質ですから自然に補給されるはずですが、個人差が大きく、**体内でヒアルロン酸が多く生産されている人は肌がツルツルで若く見えます**。従って若さを保つためには、何らかの方法でヒアルロン酸を補給する必要があります。

しかし、ヒアルロン酸は微量な栄養素であり、普通の食事で十分に摂取する事が困難です。又、**一般的にヒアルロン酸は高分子であるため、塗布や経口摂取しても上手く吸収されません**。

ですが、「ECM・E ヒアルロン酸」においては、長年にわたる研究によって**低分子化し、タンパク質と結合した状態で**摂取することによって、**経口摂取で十分に吸収することが可能**になりました。

単純に低分子に しただけではない ECM・E ヒアルロン酸

「ECM・E」は低分子にしただけではありません！

ヒアルロン酸は一般的に低分子化すれば体内に吸収しやすいと考えられていますが、そうではありません。「ECM・E」は、ヒアルロン酸を低分子化しただけでなく独自の技術で抽出・精製し、コラーゲンや他のムコ多糖類をバランスよく配合しました。だから、低分子化された高純度ヒアルロン酸よりも吸収性が良いのです。

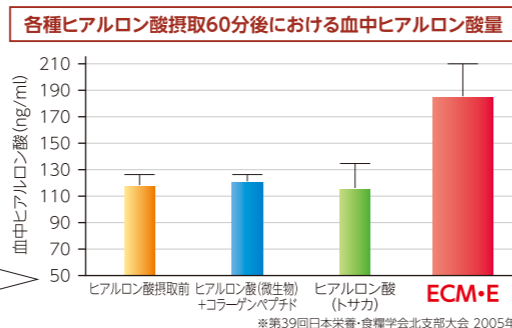


ECM・E ヒアルロン酸の抜群の吸収性

「ECM・E」は吸収が良いから体感が早い！

純品のヒアルロン酸や、コラーゲンペプチドとヒアルロン酸を混合したものにはない吸収力が「ECM・E」にはあります。

マウスに各種ヒアルロン酸を投与して、60分後の血中ヒアルロン酸濃度を測定した結果、「ECM・E」のみ血中濃度が上昇した。純粋なヒアルロン酸は変化していない。



では、次のページから「ECM・E ヒアルロン酸」と「関節症」についてご紹介します！

日本におけるヒアルロン酸研究の第一人者として活躍中の細川淳一教授にも認められました！



国際食品機能学会 会長
筑波大学名誉教授

細川 淳一

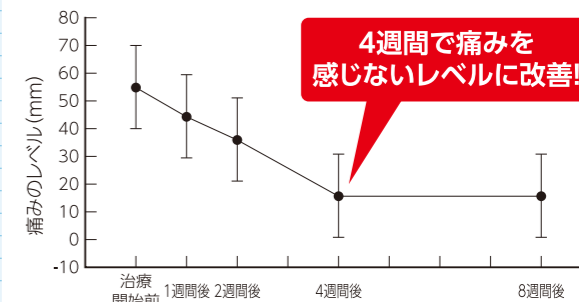
ヒアルロン酸は、体内で生命の源である水分を保有し、皮膚や関節の重要な構成要素として存在しています。ヒアルロン酸は加齢と共に減少するため、年齢を重ねると体内から水分がなくなり、枯れていきます。

ヒアルロン酸の保有量には個人差があり、若く見える人は行動も活発で姿勢が良く、皮膚にハリ、ツヤがありますが、そのような人は、体内の水分=ヒアルロン酸量が多いのです。

ヒアルロン酸は通常食品からは補給が難しいので、安全で、しっかりとデータの裏付けあるサプリメントで補給することが理想的です。

「ECM・E」は世界初の食用ヒアルロン酸として開発され、安全性は勿論、機能性についても非常に多数のデータを有しており、ヒアルロン酸を補給したいと考えている方々にもっともおすすめできるヒアルロン酸です。

研究機関にも立証されました ～ ECM・E摂取による変形性関節症の痛み改善 ～



歩くとき、立つとき、のぼるとき…節々に感じていたつらさや違和感が、気にならなくなっていく。多くのECM・Eご愛用者の実感は、科学的にも実証されています。

国際的な研究機関によると、1週目で変化を感じ、4週目で動きがラクに！節々のスムーズな動きをサポートするのがわかります。

健康 TOPICS

第18回 ちょっとカラダにいいお話

寝たきりの原因となる 運動器の障害 「ロコモティブシンドローム」

寝たきり予防には「ロコモ」への意識付けが必要です！

日本整形外科学会は2007年より、運動器の障害による要介護の状態や要介護リスクの高い状態を「ロコモティブシンドローム(通称:ロコモ)」と名付けて予防を呼びかけています。メタボが死の四大原因(糖尿病、肥満、高血圧、脂質異常症)だとすれば、**ロコモは寝たきりへの原因**と言えるでしょう。

メタボの予備軍は約2000万人とされていますが、**ロコモの予備軍は約2倍の4700万人**とされています。これは**40歳以上の男性の84%、女性の79%**にあたり、**10人中8人がロコモの予備軍**であるということです。

ロコモの原因

「運動器の障害」の原因には、大きく分けて、「運動器自体の疾患」と、「加齢による運動器機能不全」があります。

1.運動器自体の疾患(筋骨格運動器系)

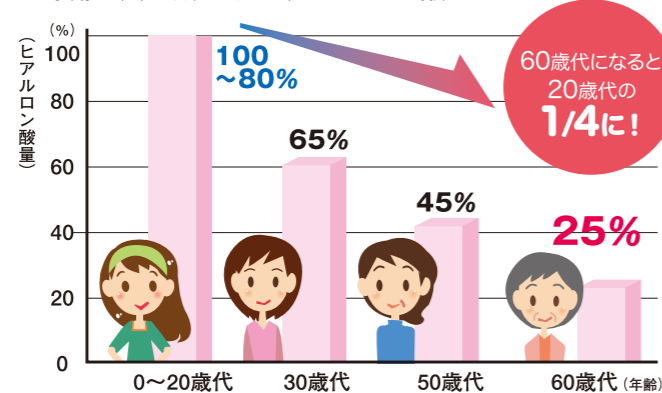
加齢に伴う、様々な運動器疾患。たとえば**変形性関節症**、**骨粗鬆症**に伴う円背、易骨折性、変形性脊椎症、脊柱管狭窄症など。あるいは関節リウマチなどでは、痛み、関節可動域制限、筋力低下、麻痺、骨折、瘻性などにより、バランス能力、体力、移動能力の低下をきたします。

2.加齢による運動器機能不全

加齢により、身体機能は衰えます。筋力低下、持久力低下、反応時間延長、運動速度の低下、巧緻性低下、深部感覚低下、バランス能力低下などがあげられます。「閉じこもり」などで、運動不足になると、これらの「筋力」や「バランス能力の低下」などと重なって「運動機能の低下」が起こり、容易に転倒しやすくなります。

関節にスピーデーにはたらきます。『ECM・Eヒアルロン酸』は

■年齢と共に減っていくヒアルロン酸



関節の軟骨は、ヒアルロン酸、コラーゲン、コンドロイチンなどで構成されています。なかでもヒアルロン酸は、わずかに1グラムで6リットルの水分を抱え込む驚異の保水力によって、軟骨のすり減りを防ぐ重要な役割を果たしています。しかし年齢を重ねると共に減っていく、60歳代には20歳代の4分の1にまで減少してしまします。ヒアルロン酸は野菜や穀物には含まれておらず、動物の皮、骨、軟骨、トサカなど、通常あまり口にしない部位に多く含まれ、普段の食事では摂るのが難しい成分です。

予防と改善のために...
年齢とともに減少していく体内のヒアルロン酸。普段の食事では摂取が難しいため、食事以外で補充することが大切です。

放っておくと怖い「変形性膝関節症」



関節症が「寝たきり」の原因に!?

厚生労働省の国民生活基礎調査(平成22年度版)による、65歳以上の人の「要介護(ほぼ寝たきり)」の直接原因を見てみると、4位が骨折・転倒、5位に関節疾患と続きます。また、「要支援(「要介護」の一步手前)」での直接原因では、1位と4位を合わせた関節疾患・骨折・転倒が他を圧倒する多さであることがわかります。つまり、足・膝・腰の関節等に問題を抱えていて、歩けない人が、寝たきりになる原因の大部分を占めているのです。

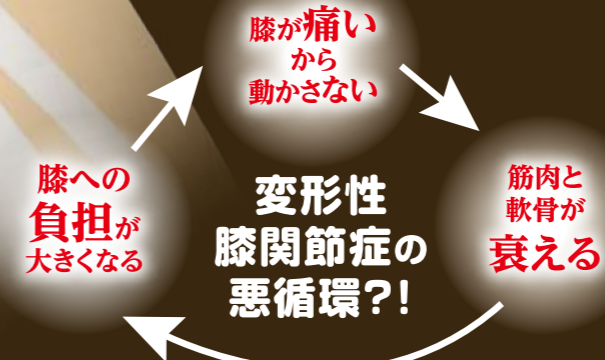
年齢を重ねるにしたがって進行し、悪化すると日常生活の歩行までもを困難にする「関節症」は、「寝たきり」の大きな原因のひとつになっていると言えます。

要介護(ほぼ寝たきり)の直接原因

割合	順位	原因
24.1%	1位	脳卒中
20.5%	2位	認知症
13.1%	3位	高齢による衰弱・老衰
9.3%	4位	骨折・転倒
7.4%	5位	関節疾患

要支援(要介護の一步手前)の直接原因

割合	順位	原因
19.4%	1位	関節疾患
15.2%	2位	高齢による衰弱・老衰
15.1%	3位	脳卒中
12.7%	4位	骨折・転倒
6.1%	5位	心臓病
3.7%	6位	認知症



関節水を改善する
血液の中の液体成分が関節に流れ込み、水がたまる関節水腫を予防・改善します。

関節を滑らかにする
クッションや潤滑油のような役割の軟骨を滑らかにし、関節の動きまで滑らかにします。

軟骨を保護・補修する
すり減った軟骨の表面に膜をはって軟骨を合成し、補修したり、軟骨の変形を防いだりして軟骨を保護します。

痛みや炎症を和らげる
痛みを引き起こす発痛物質を抑えることで、関節などの痛みや炎症を和らげます。

抜群の吸収性 ECM・E ヒアルロン酸